

サロンあべの

VOL.175

ホッとくくひろぐく昼食会

△サロン・あべの△12月の出会い

・本日の前菜

カニ味噌、ゼリー寄せ、

エビの唐揚げなど、

と「Hoop Style」で

・旬の魚介(鯛・ホタテ)の和風

カルパッチョ刺身風香草和え

・地鶏の塩胡椒オーブン焼き、

・牛肉のシンプルスステーキ

・特性WAFUソース付き

・季節の野菜、太陽からの恵み

サラダ

・あっさり紀州梅雑炊と漬物

・デザート、柚アイスクリーム

・飲み物、各人好みのコーヒー

や紅茶、ジュース

というメニューでした。

四、五人の分量を大皿や大きな鉢に盛りつけられた創作料理

を各自、小皿に分けて、それら

を美味しく堪能しました。

それぞれの席では、参加者同

志が自己紹介をしたり、久しぶ

りに出会えた喜びや近況が交わ

される中、次々と運ばれて来る

料理を分け合いながら会話が弾

みました。

ちょうど、デザートが運ばれ

て来る頃に、全員の自己紹介が

始まりました。今回のような出

会いに初めて参加して下さいた

方は、四名おられました。

その後、くじ引き抽選会を行

い、石原栄氏より寄贈された2

001年用卓上日めくりカレンダー

ダーを5名の方に贈りました。

平成12年もいろいろな事があ

りましたが、慌ただしい年の瀬

の中で「ホッとくくひろぐく」時間

を共有できた△サロン・あべの△

12月の出会いでした。

参加者19名(山村貴司)

舌鼓を打ちました。

私たちは、お昼のコースで、

した。

カジュアルに楽しませてくれま

を「新和風創作料理」にして、

着いた雰囲気があり、日本料理

予約席は、田舎風の作りで落ち

かれて入って行きます。店内の

の路地を思わせる案内通路に導

なビルの中でありながら、京風

今回の「庵(UN)」は、近代的

「食会」を開催しました

月の出会い「ホッとくくひろぐく昼

(UN)」で△サロン・あべの△12

側のオープンしたHoop(フ

ープ)の地下1階にある「庵

12時より、阿倍野近鉄百貨店南

平成12年12月2日(土)午後



ホツとくつろぐ昼食会
ごちそうさまでした。



今日は皆さんとご一緒にお昼ごはんをい
ただく事ができました、ありがとうございます
ました。お食事もとても美味しくて、い
お店を見つけていただき、心から嬉しゅう
ございました。お世話をいただいた方々に
厚くお礼申し上げます。

本当にありがとうございます。
平沢 邦子



はじめてのHoopで、おひるからおい
しいコース料理をいただき、久しぶりにお
逢いした方、はじめての方に、楽しいひと
ときをありがとうございました。

新しくスタートする年も、どうぞよろし
く、お仲間に入れてくださいね。

元気で明るく前をしっかりとみて、自分ら
しくマイペースの道を頑張っていきたいと
願っています。

まだまだ、お仕事頑張ります。

ありがとうございます。

岡 賀寿子



スタートが20分おくれでした。やはり、時刻がきめられたら、おくれないようにするのが社会ルールだと思います。市内に住みながら、Hoopに初めて入りました。次は、新しい立派な場所もよろしいけれど、ゆったりできる古びたミセもよいのでは。

(無記名)



堺市から来ました石原です。どうぞよろしくお願い致します。
今日の出会いは、本当にたのしい一日でした。こういう出会いにまた来たいです。本日は楽しいサタデーでした。ありがとうございます。皆々様、健康で又の日のために、お会い出来る日を。
ありがとうございます。グッバイ

石原 栄



今日の出会いをありがとうございました。とても、おいしいお店を教えてください。本当に楽しい昼食会を開いていただき、ありがとうございます。来年もよろしくお願い致します。

山本 鈴子



今年もいろいろお世話様になり、ありがとうございます。今日はいゝ所へつれて来ていただき、おいしく楽しくいただきました。来年もまた、よろしくお願い申し上げます。

倭 満也子



二十世紀最後の本日の集まり、いろいろと過ぎし方考え感無量です。その間いろいろな多種多様の苦難のりこえて来ました方々と袖すり合うも他生の縁とやら…。今日の出会いを大切に、来る年の出会いも大切に、前向きに人生の余生を、幸福にあれと祈るのみです。本年もいろいろとお世話になり、ありがとうございます。どうか健康には、皆様十分に気を付け、またお会い出来るのを楽しみに…。

See You Again.

December 2 (Saturday), 2000

Tomiko Sakata



12月2日、参加できなくて申しわけありませんでした。

食べるのが大好きで、おいしいものに目がないので、サロンの食事は毎年楽しみにしているのですが、なぜか縁が薄く今年も欠席。残念でした。

来年こそ。12月第一土曜日は今からチェックを入れておきます。

くいしん坊 (石)



フープの地下のおいしい「庵」へ、行かしてもらって、ありがとうございます。

二十世紀も終りで、もうすぐ二十一世紀です。また、これからも、ハサロン・あべのVでよろしく願います。

倭 栄 司

自立生活理念を考える —自己決定と介助—

■8■

黒田隆之

前回、障害者は自らの生活の安定を求めれば求めるほど介助者に従順にならざるを得ず、自己決定を行いくくなるというジレンマに陥ることを説明した。今回も、引き続き介助関係について考えてみたい。

白石正夫先生は、「絶対的欠乏（飢え）と相対的欠乏（その社会の生活水準からみて欠乏）」とは、人々をして自由よりも強制を好ませる一因である。欠乏を恐れて、すなわち「人間」ではなくなることを恐れて、人々は大樹（国家権力、社会的権力や他人の陰に寄る）」と述べているが、これは国家と個人の関係においてだけでなく、個人間

である介助関係においても十分に当てはまることであろう。生きていくために必要な介助、そしてより普通の生活をするための介助、介助なしではできないことを可能にするには、当然介助が必要となる。しかし介助を求めれば求めるほど自由、つまり自己決定は失われていく。

それは、例えば、入所施設を考えると理解しやすい。入所施設では一定の介助は保障されている。しかしその保障の裏側には、管理や隔離といった人間の尊厳を損なう扱いが隠蔽されている場合が多い。介助者は、介助関係における権力を持つことにより、自らが行いやすい方法・方針で介助を行うことになる。ある時には、それは障害者にとつて精神的・肉体的苦痛をとまなうことかもしれない。外出、入浴時間の制限、起床・就寝時間の規則、異性による介助などは、介助者側の都合によるものである。介助者が介助関係を支配・管理する構造をさらに強固にすると考えられるのが、専門性といわれるものである。イバン・イリイチが「この二十世紀中葉が、人びとの能力を奪う専門家の時代（The Age of

Disabling Professions) であると命名することを提案したい」と言うように今日の社会には様々な専門的職業をもった専門家が存在する。専門的職業とは、「聖職者・医師・法律家などに典型的に見られるように、長期の教育訓練によつて習得した、学問的裏づけをもつ技能の独占的行使を通じて、社会に貢献することを第一主義とする職業」(『社会学小辞典』有斐閣) のことである。

介助に関係する専門家を考えると、例えば介護福祉士、ホームヘルパー、ケア・マネージャー、ソーシャルワーカー、社会福祉士、医師、看護婦、保健婦などをあげることができらる。専門家には、専門性を根拠として、さまざまな決定に関与したり、決定を下したりすることが法的にまたは社会的に認められている。ときにその決定は、個人の意思に関わらず強制力を持つこともある。専門性は、介助関係における介助者の支配・管理をさらに強固にする可能性を持つ。

今回は「自立生活モデル」といわれる介助関係について検討する。

「サロン・あべの」の話題 8

うえひら☆ゆきお

運営委員の「思い」について書くのは、前回の加賀谷さんで終りにしたいと思えます。本来なら、すべての運営委員を。そして参加者の方々についても、個々に取り上げるべきでしょうが、それは、またの機会にという事で、許してください。

ただ、運営委員はそれぞれが個性的であり、役割分担という形の中で、その能力を発揮、あるいは開発しているという事だけは、確実です。

〈サロン・あべの〉の問題点(?)

〈サロン・あべの〉は、まれに見る成功例です。しかし問題点がないわけでもありません。それは、運営委員である障害者が一番良い経験をしている事です。彼らは、「出会い」の企画・運営、「サロン・あべの」紙の編集・発行、さらには資金集めという経験を積み重ねています。また、運営委員として、参加者である他の障害者や健

常者を、客観的に見る事のできる立場にあります。これらが彼らにとって、自分自身を成長させるための、貴重な財産になっていると思います。

ほんの数年前までは、運営委員である障害者が、そのポジションを長く独占している点を、問題だと思っていました。とても良い経験ができる場であればこそ、ひとりでも多く、他の障害者にも経験してもらおうべきだと考えていました。そのためには、役員に任期を設けるなどの、世代交代のためのルール作りが必要ではないかと思っていたほどです。

しかし、それが待ち切れなかったのでしょうか。現実には、各地で新しいサロン活動が生まれています。つまり、障害者が活動できる場、障害者を受け入れる場が、確実に増え始めたという事なのです。

まとめに替えて

◆「サロン・あべのとは？」は、近く、小冊子にまとめる予定です。

〈サロン・あべの〉は、今年十五周年を迎えます。障害者主導でありながら、その対象を障害者に限定せず、健常者にも広げたところに、その成功の要因がありました。そして、ほかにはない先進性が特徴でした。しかし、各地にサロンができるにつれて、〈サロン・あべの〉への参加者が、減ったような気がします。その顔ぶれにも、変化があったと思います。

参加者が減ったことは、確かにさみしい事ですが、これからの〈サロン・あべの〉のあり方を考え直す意味で、チャンスかも知れません。参加者こそが主役であり、パネラーは、その次。そして運営委員は裏方であり、参加者をお迎えるホスト役に徹する事が、求められていると思います。

参加者が多いと、細部に目が届きません。反対に少なすぎると、参加者が緊張して、「出会い」が盛り上がりません。もちろん、その日のテーマ、パネラーによって、参加

人数が変動するのは仕方ありませんが、運営委員は、もっと参加者に寄り添う気持ちが必要だと思えます。〈サロン・あべの〉の運営委員なら、それができると思うからです。



すてきな「35年目の青春」

「フィッシング&ダイビング」以下、楽しく読ませていただきました。「35年目の青春」はすてきすてきとつぶやきながら、親子のコミュニケーションの有り方を心温まる思いで読ませていただきました。

人と人のおつき会いは、年をとるほどひとつこみ思案になりますが、私は次々いろいろな方とお友達にさせていただき、ありがたい事と感謝しています。

二十世紀もいよいよ終りが近づきました。来年もまた、よろしくお願い致します。

お元気でね。

森下 公子

サロンの
全部がわかります。

はあとが、はろー！

頒布価500円(送料別)

★私にとって大事なことを

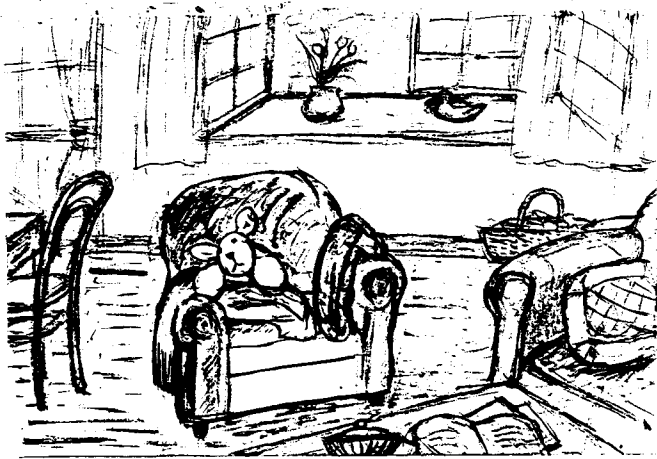
私の年末は、いつの年でも酷いものであった。締め切りの近づいた原稿に追われ、私のコメントを待つ学生のノートを山のように積んだまま、片付かない書類の上を踏んで歩きまわり、苛立ちながら筆記道具や参考資料を探しているのが例年の姿であった。

ところが今回は落ち着いていた。山のような書類もない。部屋はある程度片付いている。日中は家族で買い物をしたり、子どものビデオをとったり掃除をしたりして過ごしていた。

その理由は前回のサロンの原稿で書いたとおりだ。「急ぎのことよりも大事なことを優先する」という原則を実行したおかげである。急ぎのことは私たちの心にあまりに迫るので、大事なことを後にしてでもやってしまう。その結果、大事なことが最後まで残り、私たちの苛立ちはますます大きくなる。

たとえば年賀状は一月二十五日までに

投函するよう郵便局のポスターに案内があれば、その期限までの日数を数えながら必死で書いていたような記憶がある。例年、私は年賀状の文章を時間をかけて何種類も考えていた。だから、とても一日では書けない。妻が一人で苦労して掃



除をしても、「これが終わったら手伝うから」と言つて、そんな年賀状づくりの時間をかけていた。

年賀状を書くのは急ぎの用事である。

一方、掃除は明日にでもできる。しかし、どちらが大事かといえば掃除だった。だいたい是非でも元旦に間に合うように年賀状を書くことは、よく考えてみれば、私にはそれほど重要なことではなかったのである。

実際、それが自分にとってどれだけ重要かはつきりと自覚しないままに、急ぎの用事だからという、ただ、それだけの理由で優先してきたことがずいぶんあったように思う。

たとえばいろいろな雑誌から原稿依頼がある。雑誌の編集者から特集号の趣旨と、私が書くべきテーマについて聞くと、それに合わせたものを書いてきた。締め切りに追われながら書いていくのだが、原稿料で生活しているわけではないのだ

から、お断りしても良かったのである。講演にしても同じこと。私は即興で講演できるほどの才能はないから、ずいぶん前から準備をする。時間がない、忙しいと思うのであれば、引き受ける必要はなかったのである。

では、なぜそういうことを引き受けてきたかという、自分が人から必要にされている、自分は求められているという感覚を味わいたかったのだと思う。実際は私が書かなければ他の人が書く。講演も講師になれる人はいくらでもいるのである。

誰かの依頼で書いたり、話したりしていると、自分がもともと何を書きたいのか、何を話したいのかということをお忘れしてしまう。まして締め切りに迫られ、スケジュールに追われているとそうなる。

誰かからの依頼で動くのではなく、自分が本当にしたいこと、自分が大切に思っている、行おうべきだと信じていることを今年に実行したい。それが今年の私の目標である。

(知)

ききみみずきん

年賀状

新世紀、

あけまして、

おめでとうございます。

皆様には、お元気に楽しいお正月をお迎えになられたことと存じます。昨年は、何かとご支援ご協力を賜りまして、ありがとうございました。本年もよろしくお願い申し上げます。

皆様からサロンに、多くの年賀状をいただきました。カラフルな「巳」デザインの年賀状や家族の写真など、日ごろ知らないその人なりの一面を拝見して楽しませていただきました。E-mailの番号やホームページの案内なども多く記載されていました。これこそ新世紀の幕開けにふさわしい通信手段となるものなのでしょう。しかし、その中で手彫りの版画絵や手書

きの筆文字に魅かれるのは、郷愁でしょうか。

初参りも代参ですませ、お願いだけは、ここからでもお聞き届けくださいと、厚かましいお願いを元旦早々にしてしまいました。が、新年のごあいさつにいただいた中にバリアフリーの神殿作りの予定図がありました。

一般の神社仏閣にはたいがい階段があります。今は、申し出ればその人たちに介助をお願い出来ないこともありませんが、やはり制約を感じずにはおられません。ところがこのバリアフリーの神社には今からサロンから初詣に行きたいねと希望ができました。完成が待たれる十年です。また、元気に過ごしたい十年でもあります。

(け)

植物あれこれ

第二十四回

山口康二郎

③ オレガノ

ここ数年、年末年始を和歌山の田舎で過ごすことが習わしになってしまいました。その数年で、今年が一番寒く感じたのは、年の所為だけではないようですね。釣り納めと初釣りをして帰るつもりが、虚しくテレビ年末、年始となりました。

しかし、面白いことに畑ではいろいろなハーブがきれいに花を咲かせているのです。ラベンダーやセージが今、満開状態なのです。そういえば、昨年は十二月初旬まで、暖かかったため、この寒波であつという間にだめになるでしょう。炬燵に入りながら、自然のいたずらでは済ませられない異常天気の原因を考えさせられました。

「二十一世紀は人間が過ちを修正する年だ」と大江健三郎さんが訴えられているのに意を強くしながらも、遅々として進まな

い環境対策が、加速度的に早まることを願うだけでなく、自分で出来ることを考え、実行する年にしたいと思います。

さて、ハーブの中で最も多いのが、しそ科のハーブですが、いまイタリア料理で、一番使われて、しかも日本の若者に人気があるのはオレガノです。そうです、ピザに欠かせないのがオレガノです。第二次大戦後、アメリカでオレガノの消費量が急増し、二〇年間で六〇倍になったのは有名な話です。原因は、イタリアに進駐したアメリカ兵が、ピザの美味しさに魅せられたのが始まりで、その後、世界的にピザの流行が始まったといわれています。

別名、ワイルドマジヨラムといい、ヨーロッパから西アジアが原産で、乾燥気味な丘陵地や、山地に自生している、丈夫な多年草です。

春や秋に鉢や箱蒔きし、本場が五く六枚で定植し、一年目はほとんど摘芯して株を



増やすと、二年目には大きく育ちます。

寒さには強いのですが、梅雨の蒸れに弱いので、梅雨の前に枝透きをすることが大切です。もちろん、その枝は料理に使えます。

夏に開花します。開花直前根元から刈取り、陰干しし、乾燥したのを料理に使います。強い芳香と刺激的な辛みと苦みが、チーズやトマトとよく合い、パスタ、肉、魚や、野菜に独特の風味をつけます。

オレガノは風邪、気管支炎、肺の感染症に極めて効果的であるといわれています。

八号鉢で十分育てられます。花も淡紫色桃色で花壇の花としてもきれいです。

どうです、今年挑戦してみてもいいです。

美智子のこんな話

岸田美智子

「まいど」からのお知らせ

「まいど」では、地域障害者に、介助者派遣を始めていこうと「ホームヘルプセンター・ホップ」を立ち上げ、動き出します。どんな重度障害者でも、介助者を使って、より豊かな、その人らしい生活を実現していくお手伝いをしていきたいと思えます。皆様のご協力をお願いします。

岸田 美智子

地域で自立生活をしている女性障害者の

介助を・・・

～女性ヘルパー募集～

大阪市住吉区内で、独り暮らしをしている女性車いす障害者の介助の仕事です。

○介助内容：風呂・トイレ・着替えなど

《時間》午後七時～九時

(同時時間帯内の一時間半)

《曜日》火・木・金・日

(週一～二回入れる方)

《時給》一、四一〇円

《交通費》一回、往復一、〇〇〇円まで

支給

《年齢》二〇～五〇歳位まで

・ホームヘルパーの資格取得者、または資格取得を目指している方

・長期間できる方

・体力に自信があつて、健康な方

*詳しい事は、お問い合わせください。

*連絡先

〒五五八一〇〇〇二二

大阪市住吉区长居西一―九―十二

キミハウス 一階

自立生活センター・

MY・DO～まいどぐ内

ホームヘルプセンター・ホップ

(担当Ⅱ鈴木)

TEL〇六―六六九四―五二二九

(午前十時～午後七時)

感謝

カンパ、切手、はがき、卓上日めくり、著書、紙袋、新聞、タオル等のご寄贈を、ありがとうございます

井坂ひとみ、石原栄(大阪義肢センター)、

磯崎章一、伊藤明弘・朋子、今西美奈子、

太田博、岡賀寿子、K・R 神城昭子、

阪田富子、杉山篤枝、善甫道子、T・R、

竹村定子、田辺サカエ、田村昌子、

露木昌代、長島伊津子、中野咲子、

永堀厚子、中村宣子、平山邦子、森芳江、

山本鈴子、山本敏子、吉原和郎、

その他の方々、

褒める

先生、師匠といわれる人の中には褒めて育てる人と逆に叱って育てる人があるが、私は前者に賛成である。なぜかといえば、人は誰しも褒められるとうれしいが、叱られると悔しくて腹が立つ。叱られて「ナニクソツ」と歯をくいしばってがんばる者もあるかも知れないが、褒められた方がその言葉をバネにして、また励みとしてより一層努力、成長していくのではないかと思うからである。

先日、新聞に「褒め上手になる」というタイトルでこんな記事が載っていた。

シドニー五輪の女子マラソンで優勝した高橋尚子選手を育てた小出義雄監督は無類の褒め上手

晴れのち晴れ

②8

稲垣 恵雄

手だという。高橋選手も「つらい練習に耐えて強くなってくれた」と書かれた監督の著書の切り抜きをお守りにして走り「監督に認めてもらうことが何よりうれしい」と語っている。

これはほんの一例にすぎないが、多くの著名人が子供のころ先生に何かをほめられた思い出があるということだ。そのときの一言が人生を決めた人も少なくない。

私はこの一文を読んで、褒めることの大切さを改めて感じた。褒めるの「ほ」は穂、いわゆる秀のことで傑出して秀れていると認めることだが、これからもその人の長所、秀れているところを見つけてどんどん褒めてあげたい。

「ほめ言葉はやる気をおこす」という言葉もあるのだから。

朗読テープの案内

朗読グループ「ぼけっと」のご協力で(サロン・あべの)紙一七四号の録音テープ(六〇分)が出来ました。

朗読テープ文庫

I (サロン・あべの)紙は、第一号より一七四号までそろっています。(五〇号は九〇分と六〇分の二本のテープに、一〇〇号は一二〇分テープ二本)

II (サロン・あべの)十周年記念誌「はーとが、はろー!」(九〇分テープ二本+一二〇分テープに収録)

III 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)

IV 「ラジオたんば」放送「(サロン・あべの)平成七年五月の出会い」放送分(三〇分)

V エッセー集「逃げた「ヨナ」くポランティア活動の周辺」(岡本栄一著、糸でんわ音訳)

VI 「キミたちだけじゃ困るんだ」身障者だけで旅した十余年(山田誠1995・2・22著、糸でんわ音訳)

VII 「金子みすずへの旅」(島田陽子著・九〇分テープ二本、糸でんわ音訳)

VIII 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口二著・九〇分テープ四本、糸でんわ音訳)

IX 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著・九〇分テープ五本、糸でんわ音訳)

X 「セルフヘルプグループ」(岡知史著・九〇分テープ二本+二〇分テープ、糸でんわ音訳)

XI 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修、大阪市立天王寺図書館制作)

XII 「知らされない愛について」(岡知史著・九〇分テープ二本、ぼけっと音訳)

いずれもご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田までお申し出ください。

(☎ 〇六・六六九一・一〇二八)



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」2月の社会い
 日 時:2月18日(日)午後1時30分~午後4時
 場 所:淀川区民センター「やすらぎ」
 大阪市淀川区二国本町2-14-3
 内 容:アフリカダンスで、素敵な出会いを
 ~アフリカダンスで出会いと
 発見を体験しませんか~

パネラー:旭 静哉氏
 会 費:なし
 問い合わせ先:淀川区社協(ボランティア・ビューロー)
 ☎06-6394-2900
 E-mail:kubota53@mbx.kinet-osaka.or.jp

■「サロン・ひらの」2月の社会い
 日 時:2月10日(土)午後1時30分~4時
 場 所:にこにこセンター3階
 大阪市平野区平野東2-1-30
 内 容:未定
 申し込みと問い合わせ先:平野区ボランティア・ビューロー
 大西 ☎06-6795-2200

■「サロン・にし」2月の社会い
 日 時:2月10日(土)午後1時30分~4時
 場 所:西区ボランティア・ビューロー室
 大阪市西区北堀江4-5-14 6階(西区役所隣)
 地下鉄=西長堀駅4-A号出口からすぐ
 市バス=地下鉄長堀駅からすぐ
 内 容:みんなで、昔ながらの、手作りおもちゃに挑戦!
 ~制作後はティータイムとレクリエーションゲーム

で楽しい交流会です~

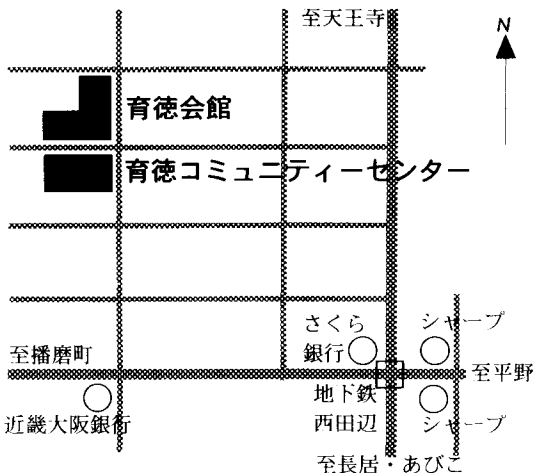
会 費:なし
 問い合わせ先:宮協 ☎06-6537-0241

■「サロンつるみ」2月の社会い
 日 時:2月18日(日)午後1時30分~4時
 場 所:鶴見会館
 大阪市鶴見区横堤5-5-51
 内 容:盲導犬と共に19年
 パネラー:山本美恵子氏
 会 費:なし
 問い合わせ先:鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)
 田村 ☎06-6913-7070

■《てくてく・すみよし》2月の社会い
 日 時:2月10日(土)午後1時~3時
 場 所:住吉区住吉サービスセンター3階会議室
 大阪府住吉区長香1-8-17
 内 容:南京玉すだれ
 パネラー:田中喜久恵氏
 会 費:300円(予定)
 申し込みと問い合わせ先:山本篤江 ☎06-6692-8411

■「サロン『アイ』」2月の社会い
 日 時:2月10日(土)午後2時~4時
 場 所:生野区在宅サービスセンター「ほかちやま」
 2階ビューロー室
 大阪市生野区勝山北3-13-20
 内 容:脳梗塞と闘う
 パネラー:金原光子氏 永田美代子氏
 会 費:なし
 問い合わせ先:生野区社協(ボランティア・ビューロー)
 ☎06-6712-3101

■「サロンみたみ」2月はお楽しみです



TEL 06-6669111028 (富田)

お問い合わせ先

会 費 〃なし

音楽療法士

パネラー 〃朝野典子氏

内容 〃「音と出会い、人と出会う
 —音楽療法って何?—

内容 〃「音と出会い、人と出会う

〔阿倍野区阪南町5-15-28〕

場 所 〃育徳コミュニティーセンター2階
 (スロープ・車いすトイレあり)

日 時 〃2月17日(土)午後1時~4時

日 時 〃2月17日(土)午後1時~4時

〆サロン・あべの〆2月の社会い

おしらせ

電話は早い、ファックスも
Eメールもある
けど、こころ伝わる
サロンの絵はがきが、いい。

サロンの絵はがき

五枚・組 一八〇円

FROM EDITOR

編集後記

<サロン・あべの>の「産経市民の社会福祉賞」受賞を報じた11月15日と12月2日付の産経新聞や本紙174号の報告記事をご覧になって、方々からおめでとうの電報・ファクス・電話・便りをいただきました。改めてみなさんに支えられての<サロン・あべの>を実感しました。そして一層心強くも感じました。同時に、兜の緒を締めねば・・・と。(石)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.175 [H.13. 1.20.発行]定価¥100.

代表；山村貴司〒546-0033 大阪市東住吉区南田辺5-1-18 TEL06-6691-9071

連絡先；富田慶子〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL・FAX06-6691-1028

表題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美禰子

郵便振替口座；サロン・あべの 00950-9-26941

印刷；セルフ社〒546-0044 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDE#2F TEL06-6719-8212